

編：日本フットケア学会

フットケア 基礎的知識から専門的技術まで 第2版

書評者：佐藤エキ子（聖路加国際病院副院長・看護部長）

2006年の初版から満を持して、『フットケア 第2版』が出版されました。本書はまさにフットケアに必要な情報(製品)のすべてが網羅(品揃え)されている“フットケアの総合商社”と言ってもよいでしょう。それだけ内容が充実しているのです。例えば、フットケアの基礎知識・診断をはじめ、検査・評価法、専門的ケア、治療技術、ライフステージに合わせたケアや靴の選び方、そして社会的支援の活用方法まで、それぞれの専門家によってわかりやすく解説されています。本書一冊でフットケア初心者を読者も、明日からのフットケアが楽しく実践できること間違いなしです。

さて、私事で恐縮ですが、私がフットケアの重要性を認識したのは今から28年前の1984年でした。当時、私は米国のETスクールでETナース(現在の皮膚・排泄ケア認定看護師の前身)の研修をしていました。そこで初めて“フットケア”の概念とハウツーを学びました。それまではフットケアと言えば、まずは足浴と爪切りを思い浮かべたものですが、フットケアは局所管理だけではなく、慢性疾患の管理を含む全身管

理が必要であるということに気付かされました。

近年、日本でも医療関係者のフットケアに対する関心が加速度的に深まってきました。フットケアの研究会が誕生し、やがて研究会から学会へと学術的にも急速な発展を遂げ、医療関係者にフットケアの広い概念が浸透してきました。そして、このようにフットケアが発展してきた背景には、医療関係者のフットケアに対する情熱的な取り組みは言うまでもなく、厚生労働省が推奨している「チーム医療」の理念がしっかりと根付き、各医療機関においてそのチーム医療の実践が結実したことが挙げられます。加えて日本人の疾病構造の変化も大きな要因になっています。生活習慣の欧米化とともに、いわゆる生活習慣病と言われている糖尿病、高血圧症、メタボリック症候群、閉塞性動脈硬化症などの患者が増加したこと、また高齢人口や喫煙者の割合が高いことなど、多岐にわたる要因によって足病変をきたす患者が増加しています。足の潰瘍や壊疽などの「足病変」が重篤化し、やがて下肢切断をせざるを得なかった例を当院でも経験しています。

そこでフットケアでは足病変の重篤化をいかに予防するかが最も重要になります。よく、褥瘡ケアの最大の治療は「予防」にあると言われますが、まさしくフットケアも予防に始まり、予防に終わると言っても過言ではありません。予防には、足病変の早期発見に向けた確実なアセスメントと評価、再発防止に向けた足・筋肉のリハビリテーション、日常の爪の観察とケアなどをこまめに実施することが求められます。人間の「足」を車の車輪にたとえるならば、車の心臓部であるエンジンの性能がどんなに良くても車輪がなければ車は動きません。それと同じく、人間にとって「足」は生活していく上で不可欠な体の一部であり、QOLの維持・向上においても重要な役割と機能を担っています。

本書は、これらのすべてが体系的にまとめられていますので、さらに洗練したフットケアを提供するためにも、ぜひお勧めしたい一冊です。

● B5 頁264 2012年
定価 3,360円
(本体 3,200円+税5%)
[ISBN978-4-260-01480-9]
医学書院刊